

Active!mail

導入数No.1! ビジネスからアカデミックまで幅広く対応
「現場の声から生まれた」ビジネスWebメールソリューション



*[ITR Market View : メール・セキュリティ市場 2014] より

■主な機能

メール受信

- 画面のペイン切り替え (3/2/1ペイン)
- ボタン/プルダウンメニューの任意配置
- ボタンの表示切り替え (アイコンのみ、テキストのみ、両者併記)
- 新着メール自動確認機能
- メールソート
- 絞り込み表示
- 返信/全員に返信
- 転送/一括転送、フラグを付ける
- メールの自動振り分け
- フィルタリング転送
- 迷惑メール登録
- IMAP フォルダーの階層表示
- 階層フォルダーの作成/編集/削除
- POP受信
- メールの詳細検索
- 開封確認通知メールを送信
- 共有メールボックスの参照

ほか

アドレス帳

アドレス帳は利用者の一人ひとりが登録して利用する「個人アドレス帳」と、システム全体で共有する「共有アドレス帳」を利用することができ、複数のアドレス帳をシームレスに扱うために階層表示画面を採用しています。個人アドレス帳内にはフォルダーのほかに、全てのアドレス帳に登録されているデータを組み合わせで「グループ」登録をすることが可能です。

便利な機能

- 情報ウィンドウ
- フォルダー管理
- プロフィール管理
- POP受信
- 署名管理
- メールの自動振り分け (フィルタリング)
- メールの条件付き自動転送 (フィルタリング転送)
- 迷惑メール管理
- 迷惑メールフィルター
- 定型文とマクロ
- 宛先の入力補完機能 (オートコンプリート)
- 開封確認通知
- メール絞り込み機能
- 受信画面からのフォルダーの作成・削除
- 前回の編集内容を復元
- スケジューラーからのメール作成
- カラーパレットによる自由なインターフェースカラーの設定

ほか

モバイル機能

- メール送受信
- メール検索
- 迷惑メール登録
- アドレス帳の追加/修正/削除
- フォルダーの追加/修正/削除
- 下書き保存
- ファイルの添付
- 添付ファイルのダウンロード
- 添付ファイルの内容プレビュー表示 (*) (Word, Excel, PPT, PDF など)

ほか

メール作成

- HTMLメール作成
- 定型文とマクロ
- メールテンプレート機能
- 宛先の入力補完機能 (オートコンプリート)
- 送信履歴からの宛先選択 (イージーアドレス)
- アドレス入力 (共有アドレス帳、個人アドレス帳、グループ)
- ドラッグ&ドロップでのファイル添付機能 (*)
- 宛先カートによるアドレス帳からのメール作成
- スケジューラーからのメール作成
- プロフィールの入力/編集/選択挿入
- 重要度の設定 (5段階)
- 開封確認通知機能
- 誤送信防止機能 (強制プレビュー、外部宛てのハイライト表示、宛先や添付ファイルの確認機能)
- 下書き保存、直前の編集内容を復元

ほか

(*)アップロードできるのはファイルのみになります(フォルダーはアップロードできません)。この機能は一部の古いバージョンブラウザでは利用できません。

スケジューラー

個人向け予定管理ツールである「個人スケジュール」と、システム管理者がユーザー全員に対して登録する「共有スケジュール」表示機能を備えています。「月間」、「週間」、「日間」の3種類のビューを用意し、期間ごとの一覧性・視認性を高めています。

セキュリティ機能

- 誤送信防止機能 (宛先と添付ファイルの確認機能)
- メールデータをクライアント側に持たせないことで情報漏えいを防止
- パスワード有効期限の設定
- パスワード保存の許可の設定
- セッション有効時間の設定
- 迷惑メール対策
- 添付ファイルほかのアップロード/ダウンロードの管理者による制御
- 管理者権限の2階層設定
- 監査用のメールアドレス設定

ほか

管理者画面

Active! mailではアプリケーションに関するほとんどの設定変更が「管理者インターフェース」を使用して、ブラウザから簡単に行なうことができます。使用するドメインごとに詳細なルール設定を行なうことも可能で、「アクティビティ設定」では主要機能を使用する/しないの選択を簡単に設定することが可能です。また、「管理者」のほかにドメイン設定の一部と「運用管理」メニューのみ使用可能な「運用管理者」を設定することも可能です。

■システム要件

対応OS

- ・ Red Hat Enterprise Linux 5.x(32/64ビット)
- ・ Red Hat Enterprise Linux 6.x(32/64ビット)
- ・ SUSE Linux Enterprise 10(32ビット)
- ・ SUSE Linux Enterprise 11(32ビット)
- ・ Oracle Solaris 10(SPARC/Intel)

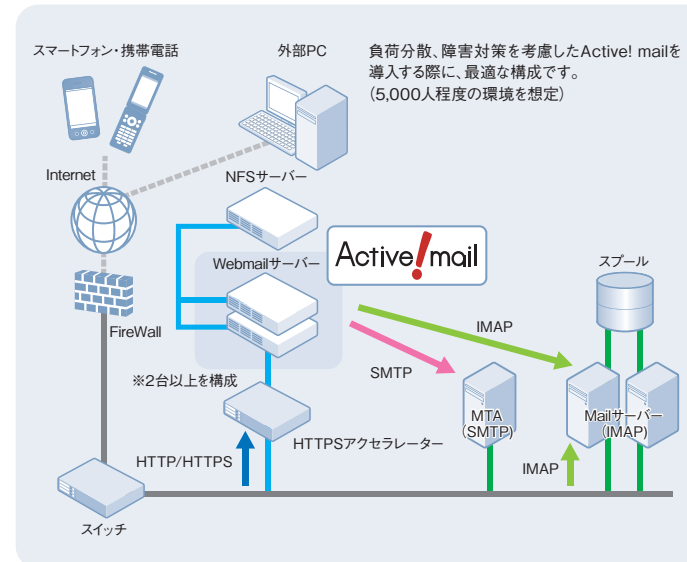
対応仮想化環境

VMwareバージョン: VMware vSphere 4/5
Active! mailバージョン: Ver.6.5以降のみサポート対象
サポート内容: 仮想化環境下で発生した障害につきましては、物理環境でも同様の障害が発生する場合に限りサポート対象とさせていただきます。

対応Mailサーバー

- IMAP
- * Cyrus IMAP Server 2.x
 - * Courier IMAP 4.x
 - * Dovecot IMAP Server 1.x/2.0.x/2.1.x(制限付対応)
- SMTP
- * sendmail 8.13.x
 - * Postfix 2.x
 - * qmail 1.03

■システム構成図



お問い合わせ



株式会社トランスウェア (TransWARE Co.)

〒104-0033 東京都中央区新川1-5-17
TEL: 03-5540-0083 FAX: 03-5540-0084
URL: http://www.transware.co.jp
Email: active@transware.co.jp

- スムーズ** 違和感のない、いつもの操作性
- スマート** ビジネスユースに耐える 多彩な機能を搭載
- セキュア** 情報漏えいを防ぐ 万全のセキュリティ対策
- モバイル** ビジネスの場所を選ばない 便利なモバイル機能が充実



クライアントメーラーを凌駕する生産性 使いやすさ、セキュリティ、コスト面で圧倒的なパフォーマンス

Active! mailは、企業/教育機関/官公庁で2,250法人、累計1,100万アカウントの導入実績を誇る、国内シェアNo.1(*)の国産Webメールソリューションです。利用シーンを問わないWebメール特有のメリットに加え、ビジネスユースの観点から機能・操作性・パフォーマンス・セキュリティを大幅に強化。クライアントメーラーを凌駕する高い生産性を実現します。また、導入のしやすさ、運用負荷の低さ、導入コストにおいても大きなアドバンテージを持ち、スピード・コストパフォーマンス重視の厳しい経営環境の中においても、企業の標準メールシステムとして、また大学の全学導入などにも積極採用されています。まさに、時代が求めるメールソリューションなのです。

(*)ITR Market view:メール・セキュリティ市場2014より

2013年 国内 Web メール市場(*)



*[ITR Market View:メール・セキュリティ市場 2014]より

「だから、Active!mailが選ばれています！」

スムーズ “違和感のない”いつもの操作性

AjaxやDHTMLを採用し、スムーズな操作を実現

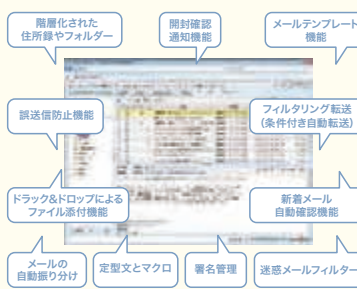
AjaxやDHTMLを用いた開発により、各種クリックやドラッグ&ドロップなどデスクトップアプリケーション同様の操作および高速なレスポンスを実現しています。また見た目に関しても、一般的なクライアントメーラーに準拠したインターフェースを採用。受信画面のレイアウトや色、ビューサイズの変更、フォルダの階層表示などもユーザーが任意に行なうことができ、違和感のない移行が行なえます。



スマート ビジネスユースに耐えうる 多彩な機能を搭載

実際に使用されるお客様のご要望から機能強化

これまで実際にビジネスで使用しているお客様のご要望をもとに機能を拡充してきました。そのため、共有アドレス帳、誤送信防止機能、開封確認通知、フィルタリング転送(条件付き自動転送)、署名の複数使用、定型文とマクロ、メールテンプレート機能など、“ビジネスの現場、が求める高度な機能が満載です。検索もスムーズで、必要なメールをストレスなく探し出すことができます。



セキュア 情報漏えいを防ぐ 万全のセキュリティ対策

セキュリティポリシーに則った運用が可能

メールおよびアドレス帳データをPC内に残さないため、万一のノートPCの紛失や盗難時にも、大事な情報の漏えいを防ぐことができます。加えてSSL暗号化の利用により、悪意のあるHTMLメールや、なりすましの対策も万全です。誤送信防止機能により、誤送信による漏えいも防ぐことができます。また、ユーザーの操作制限、パスワード有効期限の設定など、お客様のポリシーに合わせたセキュリティ対策も可能です。



モバイル ビジネスの場所を選ばない 便利なモバイル機能が充実

スマートフォン専用インターフェースを標準実装

各種スマートフォンや携帯電話からの利用が可能のため、ビジネスにおけるタイムロスを最小限に抑えることができます。スマートフォン版はHTML5を用いて開発した専用インターフェースを標準実装。タッチパネルのタップ、ダブルタップ、ホールドなどで簡単に操作することができます。



導入が加速するWebメール! そのメリットとは?

クライアントメーラーを超える
ユーザビリティ&機能

ビジネスのスピードを加速する
モバイル環境での利用

クライアントPCに依存しない
強固なセキュリティ

一元管理による
管理・運用負荷の軽減

ライセンス・保守・教育などの
コスト低減

独自ドメインでメール
アカウントの利用が可能

便利な機能/特長

日英中韓の多言語に標準対応

グローバル化が進む中、ビジネスをはじめ、あらゆるシーンで多言語環境はもはや必須。Active! mailでは、UTF-8による多言語でのメール送受信に加え、操作画面の日英中韓の切り替えに標準対応。グローバルな企業、教育機関の現場でのスムーズなコミュニケーションを加速します。



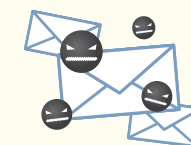
大容量ファイルや機密ファイルも安心

添付ファイルはいまや悩みの種。年々増加する容量に加え、メールの盗聴や誤送信による情報漏えいなどセキュリティ上の問題も存在します。Active! mailでは、ファイルを添付せずにファイルのやり取りを可能にする機能をオプション提供。多様なセキュリティ設定も可能ですので、意図しない相手の受け取りを阻止します。



より強固な迷惑メール対策が可能

効果の高い学習型のベイジアンフィルターを標準搭載。加えて、ゲートウェイ型迷惑メール対策ソフトウェアActive! hunterと連携することで、より強固な迷惑メール対策が可能です。サーバー上に隔離されたメールをユーザー自身で確認することもできるので、万一の誤判定でも、大切なメールを失うことはありません。



既存のメールシステムをそのまま活用

システム構築はWebサーバーへのインストールのみのため、既存のメールシステムへの影響はほとんどなく、安全かつスピーディな構築が可能です。また、多様なプラットフォーム、メールサービスに対応しているため、環境の異なる地域や支社などへの導入も可能で、グローバルな全社展開もスムーズです。

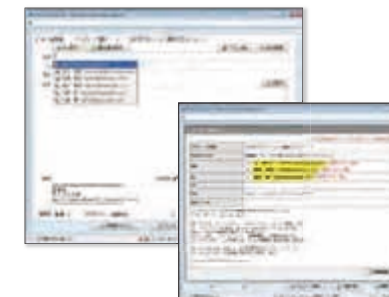


メール受信画面



くせのない使いやすいインターフェースを用意。3ペイン/2ペイン/1ペインの選択も可能。メール受信画面のボタン/プルダウンメニューの配置なども任意にデザインできます。

メール作成画面



宛先入力支援、開封確認通知、署名の複数使用、定型文、マクロ、テンプレート、誤送信防止機能など、ビジネスでのメール送信に便利な機能を多数搭載しています。

利用環境の設定



レイアウトやカラー、署名、モバイル、フォルダ階層、テンプレートなど、ユーザーごとの設定が可能。設定画面はシンプルかつ、どなたでも簡単にできるように工夫されています。

サーバー上でのファイル管理とメール添付をしないファイルの受け渡しを可能にする

Active!mail ファイル管理拡張オプション

!“快適”、“安全”なファイルの管理と受け渡し機能

Active! mailファイル管理拡張オプションは、Webメール製品Active! mailのユーザー画面からWebサーバー上のファイルの管理ができ、添付ファイルとしてメールにファイルを添付せずに送り先への受け渡しを可能にするオプション製品です。ファイルの管理と受け渡しを快適に場所を選ばずに実行することでビジネスコミュニケーションの利便性を向上します。

■ファイル管理画面

機能
1

場所を選ばない!

いつでもどこでも
ファイルの管理や取得が可能

機能
2

メール添付が不要!

大きいサイズや
重要なファイルの送付も安心

機能
1

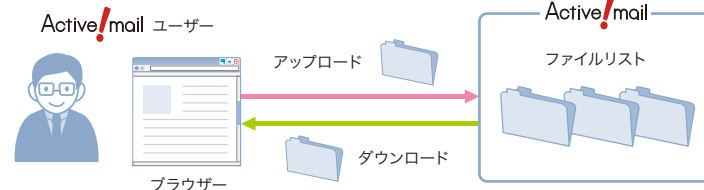
場所を選ばない! いつでもどこでもファイルの管理や取得が可能

<ファイル管理機能>

Active! mailの画面内でファイルをサーバー上にアップロードして管理する機能です。サーバー上にアップロードしたファイルはActive! mailを利用できる環境であればどこからでもダウンロードすることができます。

- Active! mailの専用画面からファイルをサーバーにアップロード
- アップロードされたファイルのリスト管理
- ファイルリストから特定のファイルをダウンロード

■ファイル管理機能の利用イメージ

機能
2

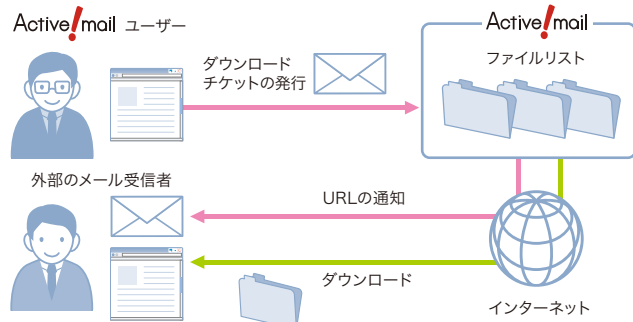
メール添付が不要! 大きいサイズや重要なファイルの送付も安心

<ダウンロードチケット機能>

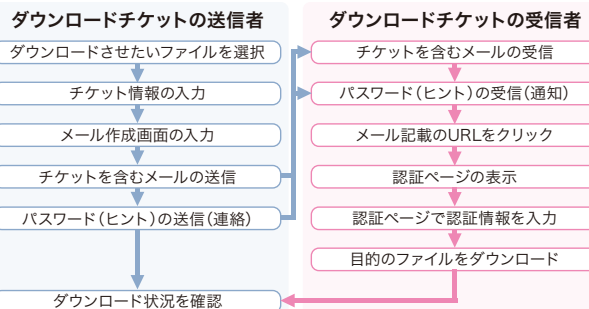
ファイル管理機能で管理しているファイルをメール添付せずに送り先に受け渡す機能です。メール添付しないことで、送り先のサーバー制限を超えた大容量のファイル送付、機密性の高いファイルや個人情報を取り扱う場合なども安心です。

- ファイル管理機能で管理されているファイルの一覧からダウンロードさせたいファイルを選択してダウンロードチケットを発行
- 発行したダウンロードチケットを管理(表示・削除)
- ダウンロードチケットの受取人がファイルをブラウザからダウンロード

■ダウンロードチケット機能の利用イメージ



■チケット発行からダウンロードまでの流れ





！ リモート環境でのファイルダウンロードも可能にする快適なファイル管理

ファイルをActive! mailの画面からアップロードしてサーバー上で管理することが可能です。アップロードしたファイルはActive! mailのインターフェース上からリスト管理することができます。ディスクの使用量、ツリー状のフォルダー、ファイルの種類やサイズ、作成・更新日時、コメントなどが表示され、検索やソートなども可能です。Webブラウザ環境さえあればハードディスクやCD-Rなどに保存して持ち歩かなくても、いつでもどこからでもファイルをダウンロードすることが可能になります。

！ 「ダウンロードチケット」の発行でメールに添付しないファイルの受け渡しが可能に

サーバー上で管理されているファイルは「ダウンロードチケット」を発行することで、送り先にダウンロード権限を許可することができます。「ダウンロードチケット」は、メールの形式で送付されます。パスワードはもちろんのことチケットごとにダウンロードの有効期限や有効回数など細かな設定ができますので、送り先以外にダウンロードされてしまう危険性もありません。

■ ダウンロードチケット発行画面



■ ダウンロードチケットの管理画面



■ ダウンロードチケットメール



！ 複数のセキュリティ設定でファイルの誤送信や相手先以外のダウンロードを防ぐ

ダウンロードチケットのパスワード設定は「パスワードを設定しない」「任意のパスワードを設定する」「システムで自動設定する」の3種類から選ぶことができ、パスワードの桁数は管理者により設定されます。パスワードの送信方法も「メールで通知しない」「メールで通知する」「ヒントのみをメールで通知する」の3種類から選択することができます。また、発行したダウンロードチケットは、発行者によりいつでもダウンロードのロックをかけることができます。管理者は送信先ドメインの制限をかけることが可能で、ダウンロードチケットの自動削除の設定をすることも可能です。

■ ダウンロードチケットの再編集画面



■ 管理者設定画面



■ ファイルダウンロードメニュー画面



TransWARE

株式会社トランスウェア(TransWARE Co.)

〒104-0033 東京都中央区新川1-5-17
TEL: 03-5540-0083 FAX: 03-5540-0084
URL: <http://www.transware.co.jp>
Email: active@transware.co.jp

お問い合わせ

文教関連(順不同・敬称略)

国公立大学

東京大学
筑波大学
一橋大学
首都大学東京
電気通信大学
東京外国語大学
横浜国立大学
横浜市立大学
千葉大学
埼玉大学
茨城大学
宇都宮大学
高崎経済大学
愛知県立大学
愛知県立芸術大学
名古屋工業大学
三重大学
豊橋技術科学大学
岐阜大学
岐阜県立看護大学

京都大学
大阪大学
神戸大学
大阪教育大学
大阪市立大学
京都教育大学
兵庫県立大学
滋賀県立大学
滋賀医科大学
奈良教育大学
奈良女子大学
和歌山大学
静岡大学
静岡県立大学
静岡文化芸術大学
金沢大学
富山大学
富山県立大学
福井県立大学

九州大学
北九州市立大学
福岡県立大学
熊本県立大学
佐賀大学
宮崎県立看護大学
広島大学
県立広島大学
広島市立大学
福山市立大学
尾道市立大学
下関市立大学
岡山県立大学
鳥取大学
愛媛大学
香川大学
高知大学
島根県立大学

北海道大学
札幌医科大学
北見工業大学
小樽商科大学
帯広畜産大学
名寄市立大学
弘前大学
青森県立保健大学
岩手県立大学
東北大学
宮城教育大学
岩手大学
山形大学
会津大学
福島県立医科大学
千葉県立保健医療大学

私立大学

上智大学
法政大学
中央大学
北里大学
工学院大学
東京医科大学
昭和薬科大学
杉野服飾大学
駒沢女子大学
東京聖栄大学
帝京科学大学
東京造形大学
日本大学
日本社会事業大学
神奈川工科大学
昭和音楽大学
東洋英和女学院大学
鎌倉女子大学
東京国際大学
千葉経済大学
千葉工業大学
千葉商科大学
東京情報大学
東洋学園大学
麗澤大学
明海大学
城西国際大学
聖徳大学
武蔵大学

同志社大学
関西大学
近畿大学
追手門学院大学
大阪芸術大学
大阪商業大学
大阪成蹊大学
摂南大学
京都外国語大学
京都産業大学
京都女子大学
京都精華大学
京都橘大学
京都薬科大学
京都ノートルダム女子大学
花園大学
関西国際大学
甲南大学
甲南女子大学
神戸芸術工科大学
神戸国際大学
神戸女学院大学
神戸松蔭女子学院大学
園田学園女子大学
天理大学
鈴鹿医療科学大学
びわこ成蹊スポーツ大学
自治医科大学
日本映画大学
日本工業大学

九州産業大学
九州女子大学
久留米大学
久留米工業大学
九州共立大学
筑紫女学園大学
福岡国際大学
産業医科大学
南九州大学
長崎純心大学
愛知大学
愛知工業大学
相山女学園大学
豊田工業大学
中部大学
東海学園大学
名古屋学院大学
南山大学
名城大学
中部学院大学
中京大学
中京学院大学
山梨学院大学
西武文理大学
獨協医科大学
女子栄養大学
茨城キリスト教大学
つくば国際大学
常磐大学
大同大学

札幌大学
札幌学院大学
藤女子大学
北星学園大学
北海道情報大学
東北工業大学
東北芸術工科大学
東北文教大学
金沢医科大学
金沢工業大学
金沢星稜大学
北陸大学
新潟国際情報大学
比治山大学
広島経済大学
広島工業大学
広島国際大学
広島女学院大学
福山大学
岡山理科大学
徳山大学
松山大学
高松大学
徳島文理大学
上智短期大学
大阪女子短期大学
高田短期大学
精華女子短期大学

その他文教関係

大妻学院
岩崎学園
梅光学院
城南学園
城星学園
浅井学園
聖心女子学院
麻生塾
爽青会
日本デザイナー学院

九州大学病院
千葉大学医学部附属病院
東邦高等学校
同志社香里高等学校
岡山学芸館高等学校
京都府立京都すばる高等学校
大阪電気通信大学高等学校
柏市立柏高等学校
工学院大学附属中学高等学校
忍野小学校
神奈川県立東部総合職業技術校
中部職業能力開発促進センター

石川工業高等専門学校
岐阜工業高等専門学校
福島工業高等専門学校
明石工業高等専門学校
高知工業高等専門学校
北九州工業高等専門学校
沖縄工業高等専門学校
大阪府立工業高等専門学校
神戸市立工業高等専門学校
北陸職業能力開発大学校
四国職業能力開発大学校

関東職業能力開発大学校
近畿職業能力開発大学校
九州職業能力開発大学校
東海職業能力開発大学校
東北職業能力開発大学校
千葉職業能力開発短期大学校
新潟職業能力開発短期大学校
浜松職業能力開発短期大学校
青森職業能力開発短期大学校
秋田職業能力開発短期大学校
石川職業能力開発短期大学校
福山職業能力開発短期大学校

官公庁・一般企業(順不同・敬称略)

中央官庁	三越	大塚商会
愛媛県庁	京セラ	NTTPCコミュニケーションズ
茨城県教育庁	伊藤忠建機	NTTビズリンク
愛媛県教育委員会	日立電線	NTTスマートコネク
広島県教育委員会	みずほ信託銀行	NTTコミュニケーションズ
熊本県教育委員会	資産管理サービス信託銀行	インターネットイニシアティブ
板橋区教育委員会	東京海上キャピタル	ソニービジネスソリューション
名古屋市教育センター	日本たばこ産業	カゴヤ・ジャパン
東かがわ市教育委員会	ハウス食品	ソフトバンクテレコム
枚方市	不二製油	KDDIウェブコミュニケーションズ
町田市	大塚製薬	USEN
高崎市	持田製薬	Eストアー
東村山市	第一工業製薬	京セラコミュニケーションシステム
笠間市	日本テレビ	九州通信ネットワーク
南伊勢町	中国放送	ラクス
敦賀市	岡山放送	つなぐネットコミュニケーションズ
高知市	横浜テレビ局	GMOクラウドWEST
三重県多気町	時事通信社	エアネット
福岡県志免町	東北新社	ハイパーボックス
北九州学術研究都市	エム・ティー・ヴィー・ジャパン	オーエフ・テック
海外職業能力訓練協会	大日本スクリーン製造	グッドコミュニケーションズ
国立特殊教育総合研究所	エス・バイ・エル	スリーハンズ
国際協力事業団 沖縄国際センター	オークネット	STNet
東京都医学研究機構	マックス	サヴィス・コミュニケーションズ
都市防災研究所	スクロール	KVH
防災科学技術研究所	スクロール360	ケーブルテレビ可児
経済産業研究所	マーメイドペーパーパートナーズ	シー・ティー・ワイ
三菱化学生命科学研究所	瀧定大阪	UCOM
海洋科学技術センター	小林クリエイト	上婦負ケーブルテレビ
日本国際交流センター	スターフライヤー	アーバンライフ
日本インターネット医療協議会	トップツアール	JALインフォテック
濱野生命科学研究所財団	東芝エンジニアリング	トヨタIT開発センター
日本宇宙フォーラム	山形ミツミ	安川情報システム
癌研究会	アイビーシー	富士電機情報サービス
総合地球環境学研究所	シンクスクエア	ドワンゴ
日本貿易振興機構 アジア経済研究所	復建調査設計	クレオ
島田市市民病院	アコーディア・ゴルフ	エヌアイディ
水谷精器工業	WOWOW	キャノンカスタマーサポート
栗原工業	綜研	インターワークス
ハクキューサービス	三星ダイヤモンド工業	ダイジョブ
東日本計算センター	真生印刷	ミツエーリンクス
GBR	桑名エンジニアリングプラスチック	ゼネック
東京計器	スタンダードトレード	DTS
グラフィック	瑞光	エイケア・システムズ
タカラトミー		コンピュータムーブ

他多数
累計1,100万アカウント以上
(2014年9月現在)

※掲載を許可頂いた導入先のみを掲載しております。

千葉大学の教職員と学生およそ2万人がActive! mail6を利用



千葉大学 総合メディア基盤センター 教授
全 炳東 氏



千葉大学 情報企画課 情報基盤室長
(総合メディア基盤センター システム運用担当)
伊藤 利明 氏

千葉大学は、未来志向型大学として普遍的な教養をはじめとして、専門的な知識や技術に、高い問題解決能力をそなえた人材の育成、さらに現代的課題に応える創造的で独創的な研究を展開しています。同大学の全学的なシステム・ネットワークの運用担当である総合メディア

基盤センターでは、2005年にActive! mail 2003を導入し、大学の全教職員と学生の約2万人が利用できる環境を整備してきました。そして6年間に及ぶ実績や信頼を高く評価して、2011年にActive! mail 6へと更新しました。

Active! mail 2003の安定した稼働と信頼性がActive! mail 6採用の理由

千葉大学では2005年にActive! mail 2003を導入する以前から、全学規模でのWebメールを稼働させていました。しかし以前のシステムには、いくつかの問題があり早急な対応を迫られていたといえます。その背景について、全教授は次のように切り出します。

「Active! mailの前に導入していたWebメールは、本学の運用規模に対してシステムの安定性や柔軟性に問題がありました。また利用者からの評価も芳しくなく、早急な改善が求められていました。そんなときに、本学のシステム導入をサポートしていたパートナー企業から、Active! mail 2003を推奨してもらいました」

Webメールの刷新にあたって、総合メディア基盤センターでは、旧システムと同等の機能を備えさせるため、Active! mail 2003と連携する掲示

板システムをオリジナルで開発し、組み合わせて利用する運用体制を整えました。その結果、Webメールと掲示板がそのまま継続して利用できる利便性の高い環境が構築されました。その一方で、今度は別の課題に直面しました。その理由について、伊藤室長は次のように振り返ります。

「独自の機能である掲示板システムをActive! mail 2003に組み合わせてしまったために、Active! mail 2003そのもののバージョンアップができない、という問題が発生しました。Active! mail 2003に新しい機能が追加されても、それを反映するためのバージョンアップができずに、次の更新時期を迎えるまで、導入した当時のままでも使い続けることになりました」この問題を解決し、Active! mailの機能を十二分に活用するために、同大学ではActive! mail 6の標準版へのバージョンアップを計画したのです。

プロフィール

千葉大学

・ <http://www.chiba-u.ac.jp/>

・ 所在地: 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33



千葉大学
Chiba University



導入パートナー

- 株式会社日立製作所
- キヤノンITソリューションズ株式会社

提供ソフトウェア

- Active! mail

導入目的

- 既に導入していたActive! mail 2003からActive! mail 6へのバージョンアップ
- Active! mailの機能を十二分に活用するためのカスタマイズ版から標準版へのバージョンアップ
- 大容量ファイルの送受信を目的にファイル管理拡張オプションの導入

導入のメリット

- 約2万人の大規模運用に耐えうる安定した稼働と信頼性
- 標準版を採用したことによるActive! mailの豊富な機能の活用
- 開発やサポート体制が国内で確立されていることにより障害対応が容易
- オンプレミスでの運用によりメールログの追跡が可能

● システム概要

- 全教職員(約5,000名)と学生(約15,000名)のおよそ2万人の全学利用
- 6年間におよぶ運用実績によりActive! mailシリーズを継続利用
- 自校のメールサーバーを運用するオンプレミス型の環境で利用
- ファイル添付によるメール容量増大の対策としてファイル管理拡張オプションを導入

■ 障害対応とメールの追従性を自校で管理するためにはオンプレミスでの運用が必須

「本学のメールシステムは、政府調達に該当する案件でしたので、各社から提案を募った上で足掛け二年をかけて厳密な議論や比較検討を重ね、仕様を決定しました。その中にActive! mail 6の提案があり、技術審査の結果、Active! mail 6を合格としました。仕様策定の過程においては、クラウド型のサービスやフリーメールなども検討しましたが、本学が希望する要件をクリアできませんでした」と全教授はActive! mail 6を導入するに至る背景について話します。

総合メディア基盤センターでは、メールシステムの更新にあたって、これまでの運用実績とスムーズな移行の点から、Active! mailを継続的に利用したいという意思が強かったといいます。しかしあらゆる可能性を検討する必要から、自校でメールサーバーを運用しないクラウド型のフリーメールなどの機能やサービスについても検討しました。

「まず外資系企業の提供するフリーメールのサポート体制に関しては、日本国内での対応に限度があり、システムの障害時に即応できない、という印象を持ちました。とある大学が、外資系企業のシステムを採用したと

ころ、障害対応はほぼ絶望的だと聞いたこともあります。また国内のクラウド型のメールサービスでは、送信したメールを追跡するためのログが必要だと依頼しても、一切提供してもらえない、という制限がありました。これも運用側にとっては無視できない問題でした」と伊藤室長は説明します。

同大学にとって、メールは教職員にとっても学生にとっても、重要なコミュニケーションの基盤となっています。そのため利用者から、「送信したはずのメールが先方に届いていない」といった問い合わせがよくあります。原因の多くは、送信者の操作ミスや勘違いですが、メールサーバーを運用する総合メディア基盤センターとしては、メールのログを解析し利用者に回答する必要があります。メール環境を自らが運用していなければ、こうした問題にも対応できないのです。その結果、システムの仕様策定にあたっては、メールサーバーは自校で運用するオンプレミス型の環境を前提として、開発やサポートの体制が国内で確立されているメーカーの製品が望まれたといいます。

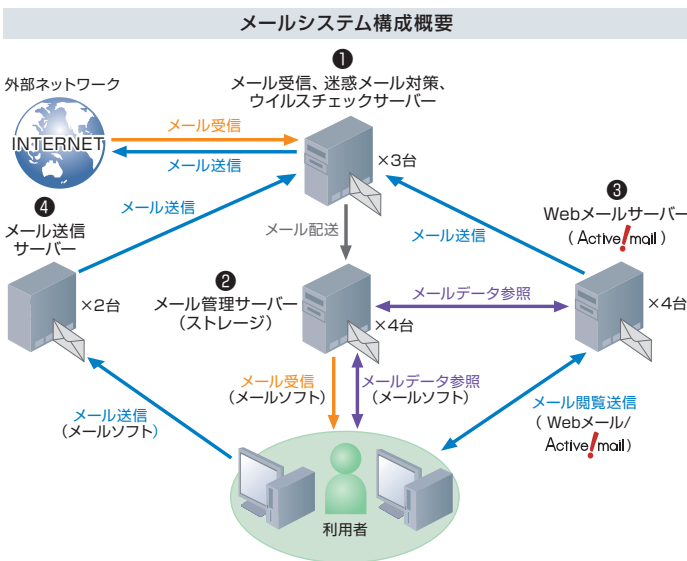
■ ファイル管理拡張オプションに注目しサーバー運用の負担軽減にも期待

厳密な技術審査の結果を経て、2011年の3月に導入されたActive! mail 6は、これまでと同じように、同大学の教職員約5,000名と学生約15,000名に、快適で利便性の高いWebメールを提供しています。新しいバージョンになって、多くの新機能が使えるようになっただけでなく、以前のバージョンと比べ、ユーザビリティが更に向上して、学生や教職員からの評価も高くなりました。また全教授はActive! mail 6の性能・機能を検証していた段階から、ファイル管理拡張オプションに注目していたといいます。

「メールの利用が活発になるにつれ添付ファイルがあるメールの乱用が目立つようになりました。最近では、数MBを超える巨大なファイルを平気でメールに添付してくる者もいます。これでは個人のメールボックスもすぐに一杯になってしまいます。ファイル管理拡張オプションを活用するようになれば、こうした問題も解決できると期待しています」と全教授は話します。

そのほかの性能や機能について、伊藤室長も評価しています。「パフォーマンスは以前のバージョンに比べて、良くなったと思います。またメッセージをローカルにバックアップできる機能も便利だと思います。導入からまだ一年足らずですが、利用者の混乱を避けるために総合メディア基盤センターとしては、Active! mail 6の新機能をそれほど積極的に宣伝していません。システムに詳しい先生の中には、自分で見つけて活用している方もいるようです。今後はサーバー環境や問い合わせ対応なども整備していったり、新機能を紹介していきたいと考えています」と伊藤室長は新機能への評価と今後の取り組みについて抱負を述べています。

「教職員にとっても学生にとっても、Active! mail 6というWebメールは、当たり前存在になっています。今後は、ポータルとして他のサービスなどとシームレスに連携させていくなど、より利便性を高めるための進化に期待しています」と全教授もActive! mail 6の進化に対する希望を語っていました。



■Active! mail 導入事例
<http://www.transware.co.jp/case/>

株式会社トランスウェア 営業本部
 東京都中央区新川1-5-17
 TEL:03-5540-0083 FAX:03-5540-0084 Email:active@transware.co.jp

茨城県教育情報ネットワークシステム 様

Active!mail

茨城県の
教育情報ネットワークシステムは、
8万アカウントの規模で
Active! mailを導入

川嶋 正人 室長



横山 宏栄 指導主事



神門 博樹 主任

茨城県では、全国トップレベルのIT教育環境を構築し、より高度な教育の情報化を推進するために、統一したセキュリティ対策のもとで、学校とその他の教育機関を網羅するネットワークシステムを平成17年度

から運用開始しています。茨城県教育情報ネットワークでは、県立学校の生徒と教職員などを含めて、8万アカウント規模のActive! mailを導入し、安全で利便性の高いWebメール環境を実現しています。

■ 全国トップレベルのIT教育環境を目指す茨城県

茨城県の教育情報ネットワークは、全国トップレベルのIT教育環境を実現するネットワークシステムとして、平成17年度から運用を開始しています。その内容は、ブロードバンドの高速性を十分に活かす回線を整備し、教育情報ネットワーク管理センターによる集中化された運用管理によって、セキュリティを確保した上で、動画配信やTV会議システムなどの機能を備えた教育機関専用のネットワークシステムになっています。茨城県教育研修センターの情報教育課教育情報ネットワーク管理室の川嶋正

人室長は、その目的などについて次のように説明します。

「茨城県教育情報ネットワークでは、県立の高等学校、特別支援学校などの学校や、教育研修センター、図書館、歴史館、生涯学習センターなどの教育機関を、大容量の専用回線であるいばらきブロードバンドネットワーク（IBBN）で結び、大きな教育機関のネットワークサービスを提供しています。Active! mailは、この茨城県教育情報ネットワークにログインできる教職員や生徒などが利用できるWebメールとして採用されています。」

■ ポータルサイトからログインできる利便性と教育現場での管理を実現

Active! mailによるWebメールを導入したことで、茨城県の教育情報ネットワークを利用する教職員は、県内のどこの教育機関に転勤しても、同じメールアドレスを使えるようになりました。また、各教育機関のドメインのメールアドレスは、それぞれの機関に設けられた管理責任者によって現場での管理を実現しています。その利便性と利用状況について、横山宏栄指導主事は、以下のように話します。

「Active! mailによる電子メールのサービスは、混乱もなく現場の先生方には使っていただいています。また、Webメールにしたことで、1台のPCを複数の先生が共有している現場でも、個人のアドレスを使い分けられる

ようになりました。これまで、電話やFAXによる連絡しか取れなかった教育機関にも、メールによる同時送信ができるようになり、情報の伝達が速く確実になりました。」

教育情報ネットワークの電子メールのアドレスは、教職員だけではなく、希望すれば県立学校の生徒にも発行できる仕組みになっています。「各組織の管理者が学校内のIDを発行できる権限を持っています。発行されたIDは、Active! mailのメールアドレスと連動しているので、自動的に付与される仕組みになっています。」とメールアドレスの仕組みについて、神門博樹主任は説明します。

プロフィール

茨城県教育情報ネットワーク

- ・ <http://www.ibk.ed.jp/>
- ・ 茨城県笠間市平町1410
- 茨城県教育情報ネットワーク管理センター



導入パートナー

- ・ KDDI株式会社（旧 株式会社パワードコム）
- ・ 茨城ソフトウェア開発株式会社

提供ソフトウェア

- ・ Active! mail

導入目的

- ・ 茨城県教育情報ネットワーク上で、安全で利便性の高いWebメール環境を実現するための採用

導入のメリット

- ・ ポータルサイトからログインできる利便性
- ・ それぞれの機関に設けられた管理責任者によって現場での管理を実現
- ・ 教育現場での情報の伝達の迅速化
- ・ 教職員だけではなく希望する県立学校の生徒にもメールアドレスを発行
- ・ 安定した運用の継続

● システム概要

ブロードバンドの高速性を十分に活かす回線を整備し、教育情報ネットワーク管理センターによる集中化された運用管理によって、セキュリティを確保した上で、動画配信やTV会議システムなどの機能を備えた教育機関専用のネットワークシステム。Active! mailは、この茨城県教育情報ネットワークにログインできる教職員や生徒などが利用できるWebメールとして稼働。

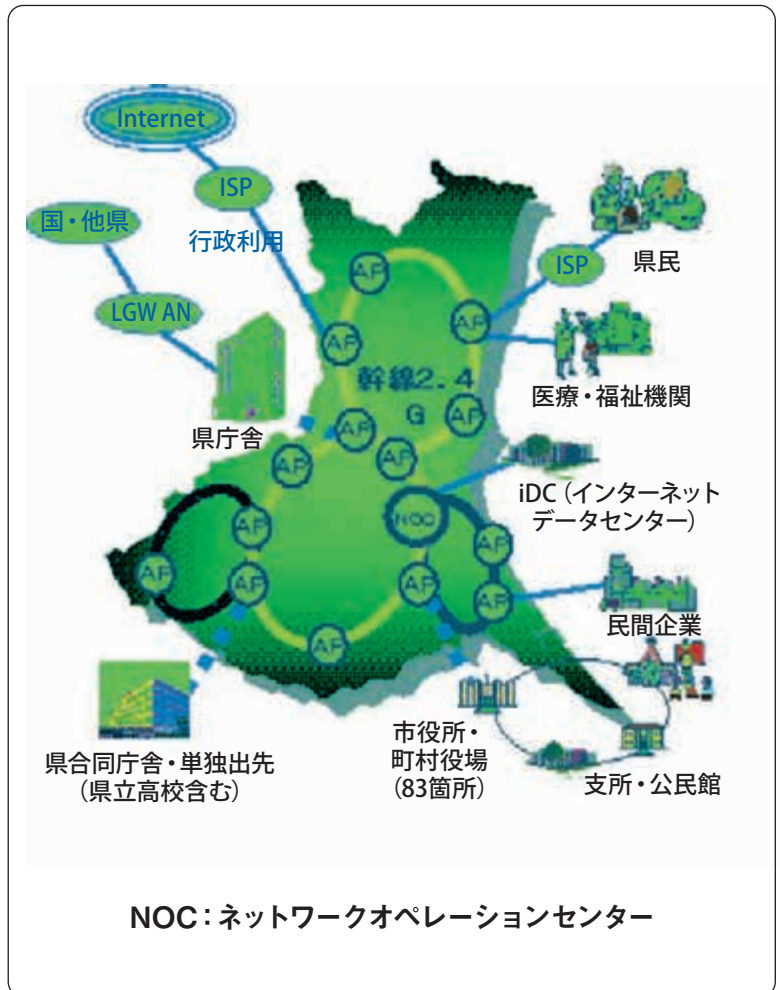
■ 安定した運用を継続し、今後は機能強化のためのバージョンアップも検討していく

教育情報ネットワークのメールサーバーは、教職員に50Mバイトの保存容量を、生徒には5Mバイトを割り当てています。また、共有住所録は教職員には開放されていますが、生徒からは利用できないようになっています。教職員と生徒の利用方法を区別して、共有住所録の閲覧を制限するために、当初はActive! mailのカスタマイズも検討されましたが、最終的にはサーバーを分割する方法が採用され、標準仕様のActive! mailを導入することが可能になりました。カスタマイズを行なわなかったことで、Active! mailのバージョンアップも容易になっています。

「この二年間で、電子メールを利用している教職員からも、間違っで送信したアドレスリストをやり直したいとか、スケジュール管理をしたいなど、いろいろなリクエストが寄せられています。こうした希望に対して、Active! mailの新バージョンで対応できると知り、現在は更新を検討中です。」と横山指導主事は話します。

Active! mailによるWebメールサービスの開始から約2年を経過しても、教育情報ネットワーク管理室では安定した運用を提供し続けています。2年の間に、Active! mailは一度だけセキュリティ対策のためのバージョンアップを行なっていますが、機能強化のためのアップデートは実行してきませんでした。

「県内の施設には、まだWindows98やMeなどのOSを利用しているPCも数多くあります。こうした利用する側の環境も、最新の状態に整えていく必要があります。それでも、利用する人たちの利便性や効率化を考えると、できるだけ早い時期に新バージョンに更新したいと考えています。」と川嶋室長は新バージョンの機能を評価するとともに、今後の取り組みについての抱負を語っていました。



■ Active! mail 導入事例
<http://www.transware.co.jp/case/>

株式会社トランスウェア 営業本部
 東京都中央区新川1-5-17
 TEL:03-5540-0083 FAX:03-5540-0084 Email:active@transware.co.jp

Active!gate

メール経由の「情報漏えい」と「うっかりミス」を確実に阻止
7つのアプローチを搭載したメール誤送信防止ソリューション

■Active! gateでできること

7つのアプローチの組み合わせで、メール誤送信のさまざまなプロテクションを可能にします。
「社外秘」「見積書」など特定のキーワードでメールを保留にするという使い方もできます。

宛先間違いの阻止

- 外部の宛先がある場合は保留
- 多くの内部宛アドレスの中に外部宛アドレスが混入している場合は保留
- 初めて送るアドレス(送信履歴のないアドレス)は保留

大量の宛先への一斉配信の阻止

- 特定数以上の宛先へのメールの保留
- Bccではなく、To、Ccに大量にアドレスがある場合は保留
- To、Ccに大量のアドレスがある場合はBccに強制変換

添付ファイルの漏えいの阻止

- 自動的にファイル暗号化して送信
- ファイルの2回暗号化でファイル名を隠すことも可能
- メール本文と添付ファイルを分離して別途ダウンロード
- ファイル名や拡張子などで添付ファイル付きの送信メールを保留
- 誤ったファイルの添付を阻止(添付ファイルプレビュー機能)

個人情報の漏えいの阻止

- 住所や電話番号などの個人情報を検知して保留
- 添付ファイルがある場合は保留(xlsなど拡張子による判別も可能)
- 「履歴書」「タイムシート」などの設定したキーワードを検知して保留
- Bccではなく、To、Ccに大量にアドレスがある場合は保留

うっかりミスの阻止

- 社内、準社内(グループ会社など)と社外の時間差配信が可能
- 上司承認(オプション)を利用して上長が外部宛のメール内容を確認
- 宛名の敬称忘れを検知して保留
- ファイルの添付忘れを検知して保留
- URLや接続できないURLがある場合は保留

ウイルスメール送信の阻止

- 「Kaspersky Anti-Virus」を実装可能(オプション)

■システム要件

ハードウェア要件

- CPU**
- ・Intel DualCore、QuadCore
 - または同等のプロセッサ以上
- メモリ**
- ・2GB以上
 - (推奨8GB以上)
- HDD**
- ・10GB以上

ソフトウェア要件

- 製品名 / バージョン**
- ・Red Hat Enterprise Linux EL 5 ・CentOS 5
 - ・Red Hat Enterprise Linux EL 6 ・CentOS 6
 - ・Scientific Linux 6
- ※OSが64bit版の場合でも32bitで動作します。32bit版のライブラリをインストールしてご利用ください。
- 対応仮想化環境**
- ・VMware vSphere
 - ・Parallels Virtuozzo Containers
 - ・OpenVZ
 - ・KVM

管理者およびパーソナルコントローラー、ファイルダウンロードセンター用 Web インターフェース対応ブラウザ

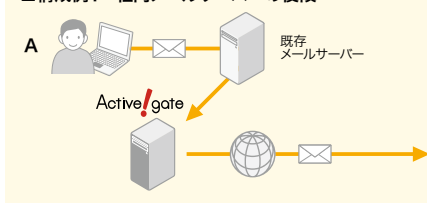
- ・Microsoft Internet Explorer WindowsOSのみサポート対応ブラウザ*1
- ・ex) Mozilla Firefox WindowsOSおよびMacOS共にサポート対応ブラウザ*1
- ・Google Chrome WindowsOSおよびMacOS共にサポート対応ブラウザ*1
- ・Safari MacOSのみサポート対応ブラウザ*1

*1 ブラウザーのバージョンについては、Active! gateの各バージョンをリリースする時点における最新バージョンのブラウザでのみ動作確認をしております。

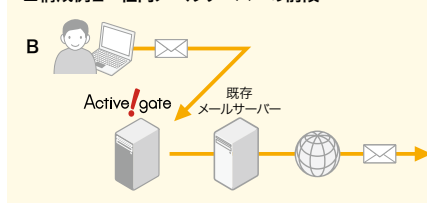
動作環境の詳細最新状況については、右記URLをご参照ください。 <http://www.transware.co.jp/product/ag/spec.html>

■システム構成図

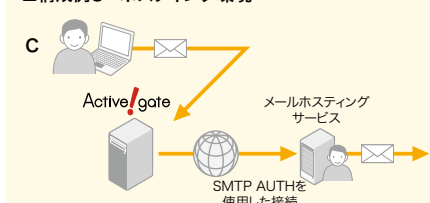
■構成例1：社内メールサーバーの後段



■構成例2：社内メールサーバーの前段



■構成例3：ホスティング環境

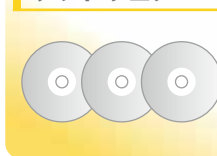


■ラインナップ

3つの導入形態から選べる！Active! gateのラインナップ

Active! gateは、ソフトウェア、アプライアンス、クラウド(Active! gate SS)の3つの導入形態をご用意。お客様の既存のメール環境や導入規模、ご利用方法、トータルコストなどの観点から、最適なものをお選びいただけます。もちろんどれを選択しても専門知識は不要で、導入や運用に大きな負担はありません。

ソフトウェア



アプライアンス



クラウド



■アンチウイルスソフトと連携

「Kaspersky Anti-Virus」をオプションで実装可能(有償)。誤送信防止機能とウイルスフィルター機能を連携させることで、送信メールのウイルスを自動的にチェックできます。ウイルスチェック用の専用サーバーを設ける必要がないため、大幅なコスト削減を実現します。



株式会社トランスウェア(TransWARE Co.)

〒104-0033 東京都中央区新川1-5-17
TEL: 03-5540-0083 FAX: 03-5540-0084
URL: <http://www.transware.co.jp>
Email: active@transware.co.jp

お問い合わせ

- 安全性** 7つの多面的なアプローチで誤送信を徹底防止
- 運用性** 管理負荷の軽減とユーザーの利便性を向上
- 柔軟性** メールソフトやサーバーの設置場所に依存しない

“うっかりミス”によるメール経由の情報漏えいを徹底排除！ 7つの誤送信防止アプローチをすべて搭載

メール誤送信による情報漏えいは後を絶ちません。宛先違いや誤った添付ファイルの送付など、たとえ“うっかりミス”でも企業の存続性に関わる問題になり得ます。メール送信時の「宛先の指定」「メール本文の作成」「ファイルの添付」はすべて人的な作業。システムで自動的に対処しない限り、うっかりミスを完全に防ぐことはできません。

Active! gateはメールや添付ファイル経由の情報漏えいを確実に防ぐメール誤送信防止ソリューションです。局所的なアプローチでは防ぐことが難しい誤送信を、7つの多面的なアプローチにより防止します。さらに、管理者やユーザーによるきめ細かいポリシー設定により「セキュリティレベルの向上」と「利便性の向上」を両立させることができます。



「だから、Active!gate が選ばれています！」

安全性 7つの多面的なアプローチで誤送信を徹底防止

7つのアプローチで「情報漏えい」と「うっかりミス」を確実に防ぐ

メール誤送信と一口に言っても、単純な宛先間違いからファイルの添付ミス、機密情報の漏えいなど、その内容はさまざま。Active! gateは、お客様の目的や状況に応じ、7つのアプローチを効果的に組み合わせることで、多面的にメール誤送信を防止します。

	Active!gate	A社製品	B社製品	C社製品
送信メールの一時保留	○	○	○	○
添付ファイルの暗号化	○	○	○	○
添付ファイルのWebダウンロード	○	×	×	○
Bcc強制変換	○	×	○	○
送信拒否	○	○	×	×
時間差配信	○	×	×	×
上司承認	○(オプション)	○	○	×

運用性 管理負荷の軽減とユーザーの利便性を向上

段階的なポリシー設定で柔軟な運用を実現

管理者は、必要に応じて管理者/グループ/ユーザーごとに段階的なポリシーが設定できます。特定のグループだけポリシーを厳しく設定したり、重要度の高いポリシーは管理者が設定し、そのほかはユーザーに任せるなど、管理者の負担を減らした柔軟な運用が可能になります。

ユーザー個人ごとのポリシー設定で利便性を向上

ユーザーは個人ごとに用意された「パーソナルコントローラー」画面にて、管理者に許可された項目を任意に設定することができます。ユーザー自身で臨機応変に設定することができ、たとえば「添付ファイルがある場合は保留にする」「外部ドメインは保留にする」など、それぞれのユーザーに合せた使いやすい設定にすることができます。

柔軟性 メールソフトやサーバーの設置場所に依存しない

既存のメール環境に応じた構成が可能

メールの送信経路に設置するだけで、すぐに導入できます。メールサーバーの種類や設置場所に依存しないため、自社内設置のメールサーバー環境はもちろん、Google AppsなどのメールホスティングやフリーのWebメールまで、既存メール環境や使用方法に応じた柔軟な構成が可能です。



7つの誤送信防止アプローチ

- 1 送信メールの一時保留**

管理者またはユーザーが任意に設定した条件によって、メールを一定期間保留できます。保留されたメールはユーザー自身で確認し、「配送」「破棄」の選択をすることができます。
- 2 添付ファイルの暗号化**

添付ファイルをパスワード付きのファイルに自動変換できます。他社にはない2回にわたるファイル暗号化、実行により、ファイル名の漏えいも防ぐことができます。
- 3 添付ファイルのWebダウンロード**

管理者またはユーザーが設定した条件によって、添付ファイルを分離してメール本文のみを送信します。分離された添付ファイルは、別途パスワードを使用しWebからダウンロードすることができます。
- 4 Bcc強制変換**

「To」や「Cc」に外部宛での大量メールアドレスを誤って指定した場合、「Bcc」に強制的に変換できます。これにより、個人情報の漏えいを防ぐことができます。
- 5 送信拒否**

時間帯や送信者、キーワードなど管理者の設定した条件により、メールの送信自体を拒否します。送信拒否をした場合、送信者にそれを通知するメールを送ることができます。
- 6 時間差配信**

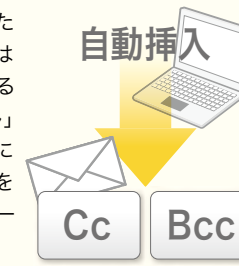
社内、準社内(グループ会社などを設定可能)、社外などドメインごとに時間差で配信することができます。まず社内にメールを送り、社外宛には後から送るという設定にすることで、送信者が気づかなかった“うっかりミス”を阻止できます。
- 7 上司承認(オプション)**

上司など承認者の許可を得たメールのみ送信することができる機能です。一時的な離席、長期出張など承認者の状況に応じて、代わりに承認する代理者を柔軟に設定できる機能を装備しています。

便利な機能

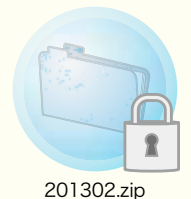
条件にあわせてCc/Bccへのアドレス自動挿入が可能

「Cc/Bcc自動追加」機能では、指定したアドレス(上司のアドレスなど)をCc又はBccに自動で挿入し、メールを送信することができます。「件名」「添付ファイル」「日付・時間」など目的に合わせて柔軟に条件を設定できます。また、ポリシーを適用する宛先も、社内/社外や特定のメールアドレスなどで設定が可能です。



2回の暗号化により添付ファイル名の漏えいを防止

「添付ファイルの暗号化」機能では、Active! gate 個々のファイル名がで暗号化したファイルを更にZIP暗号化することができます。添付ファイルの暗号化のみでは復号化の際、添付した個々のファイル名は表示されてしまいます。しかし、暗号化したファイルを更にZIP暗号化(2回暗号化)することで復号化の際にパスワード保護されたランダムなファイル名のファイルが解凍され、パスワードを知らない第三者への添付ファイル名の漏えいを防ぐことができます。



ほかに類を見ない優れた操作性

■ 確認内容のチェック



保留確認画面を開くと確認内容をチェックするパネルが自動で表示されます。自動で表示された内容を確認するだけで、配送・破棄の処理を簡単に行なうことができます。

■ 添付ファイルプレビュー



保留確認画面で添付ファイルのプレビューを表示できます。この機能により添付ファイルを開かず内容を確認することができます。

■ 添付ファイルの設定



添付ファイルの送信方法の設定、配信時間の設定、宛先の「Bcc」変換の設定などを確認し、設定することができます。

使いにくい承認機能はもういない！ 3つのフローで現場運用にあった承認フローを実現！

Active!gate 上司承認 オプション

！現場に“受け入れられる、上司承認機能を提供

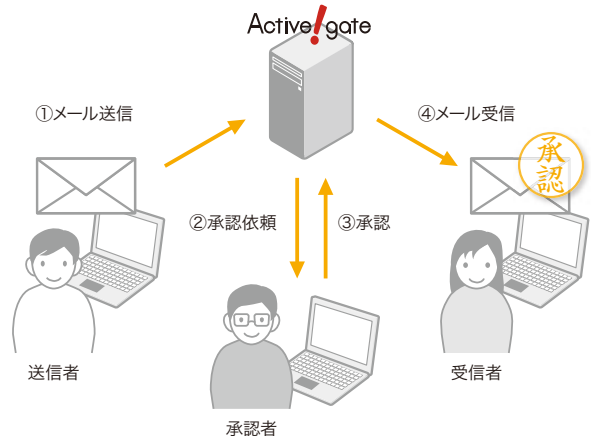
送信するメールを承認者が監査する上司承認オプションは、情報漏えいを防ぐために重要な役割を果たします。しかし、すべてのメールをチェックせざるを得ない運用では、日々忙しい上司に膨大な運用負荷を強いるばかりか、必要なタイミングにメール送信できずにビジネスを停滞させてしまう危険性ははらんでいます。

Active! gateでは、承認者である上司の運用負荷を可能な限り軽減させながら、現場作業を止めずに機会損失を最小限に防ぐことができる上司承認機能をオプションで提供します。

Active! gateの上司承認オプションとは？

上司承認オプションでは、管理者・承認者が送信者や宛先、添付ファイルやメール本文などの詳細な条件を設定し、承認が必要なメールだけを選び分けることが可能です。また、長期出張や一時的な離席など承認者の状況に応じて、代わりに承認する不在代理者、代理者を柔軟に設定できる機能を装備しています。承認者及び不在代理者、代理者が承認しない限りメールが送信できなくなり、万一の情報漏えいリスクを軽減できます。

■上司承認機能における通常の承認フロー



Point
1

ビジネスを止めない！

承認者の状況によって
2種類の代理者設定が可能

Point
2

運用負荷を大幅軽減！

柔軟な条件設定で
必要なメールだけをチェック

Point
3

情報漏えいを防止！

直感的なインターフェースで
承認作業に迷わない

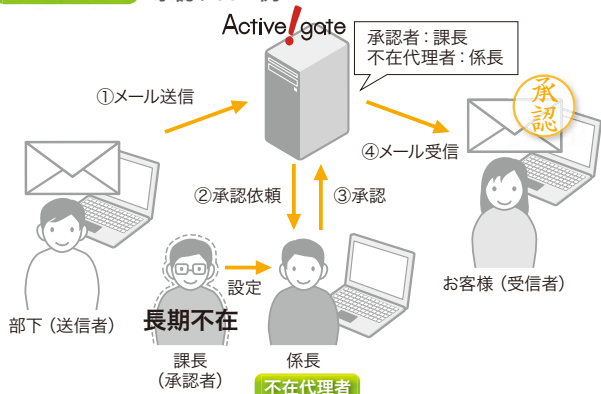
Point
1

ビジネスを止めない！ 承認者の状況によって2種類の代理者設定が可能

Active! gateの上司承認オプションでは、出張など長期不在の場合や一時的な離席など承認者の状況に応じて、「不在代理者」「代理者」という2つの代理承認フローを装備しています。「不在代理者」は、出張などあらかじめ承認者が不在になる期間に承認作業を行なう代理者のことで、承認者不在であっても承認作業を円滑に行なうことができます。「代理者」は、事前に設定した時間までに承認者が承認作業を行なわなかった場合、承認者に代わって承認作業を行なう代理者のことで、一時的に承認者が離席してしまった場合でも承認作業を停滞させることなくメール送信できるようになります。承認作業のためだけに上司が机に縛り付けられる必要はなく、承認作業の遅延による機会損失を未然に防ぐことが可能です。

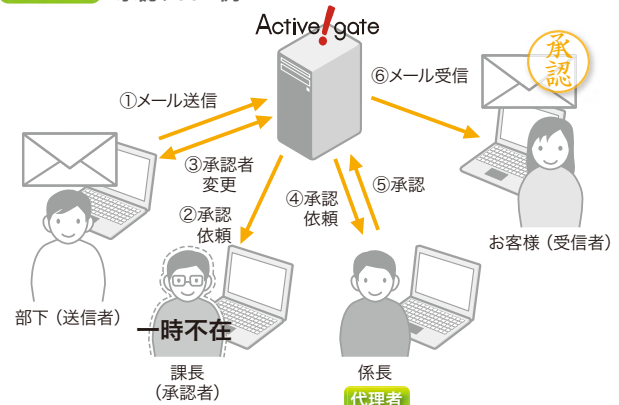
不在代理者

出張など事前に上司の不在が分かっているときの承認フロー例



代理者

急な会議など上司が一時的に不在となっているときの承認フロー例



Point
2**運用負荷を大幅軽減！ 柔軟な条件設定で必要なメールだけをチェック**

すべての送信メールを監査しなければならない運用では、承認者である上司に運用負荷を強いることになり、日々の運用が煩雑になることで、かえって情報漏えいを招くことにも繋がります。セキュリティを確保しながら利便性を高めるためには、事前のポリシーに応じて承認すべきメールを正確に特定することが重要です。Active! gateでは、宛先や件名、メール本文のキーワード、添付ファイルの種類、ドメイン名など豊富なポリシー設定ができ、運用負荷を軽減しながら強固な情報漏えい対策を実現します。また、特定の人物や顧客に絞ってメール監査を行なうことで、社員教育や顧客満足度向上などにも活用することが可能です。

具体的な活用シーン

- 重要な顧客への送信メールをドメイン名ですべて事前にチェックし、監査履歴をメールに付加することで顧客との信頼関係を維持
- 添付ファイル及び件名、メール本文いずれかに「見積書」の文字が含まれている場合は承認者がすべてチェックすることで、誤送信を防止
- クレジットカード番号に該当する16桁の数字が添付ファイルに連続して含まれていないかどうかを確認することで個人情報漏えいを防止
- 新入社員や派遣社員など特定人物の送信メールをすべて確認することで、メール本文のトーン&マナーのチェックなど社員教育の一環として活用

■承認ポリシー設定画面

Point
3**情報漏えいを防止！ 直感的なインターフェースで承認作業に迷わない**

日々の運用を円滑に行なうためには、システムに不慣れな現場のユーザーにも使いやすいインターフェースでなければなりません。上司承認オプションの承認作業はとてもシンプルです。送信者がメールを送信すると、事前に設定された承認者に承認依頼メールが送られ、宛先や件名、本文などメール内容ごとに用意されたチェックボックスを確認するだけ。漏れなく簡単に承認作業が行なえます。また、メール全体の統計情報や承認待ちのメール数など各種ステータスが一覧で確認できる管理画面を用意しており、確認作業をすべて管理画面から行なうこともできます。承認作業に迷わない直感的なインターフェースがユーザー教育の手間や承認者の日々の負担を大幅に減らし、無理なく情報漏えいを防止することが可能です。

■承認設定画面

きめ細かな
設定が可能

承認までの待ち時間やCc/Bccへの追加、承認依頼メールやリマインダー間隔など、必要なシステムポリシーをラジオボタンやチェックボックスで設定。必要な項目も簡単に入力できる。

■承認確認画面

チェックボックスで
手間なく確認

件名や送信者、メール本文など確認すべきポイントにチェックボックスを表示。順番にチェックするだけで承認作業が簡単に実施できる。

■承認一覧画面

メールを見なくても
一覧で確認できる

承認済みメールや承認待ちメールなどの情報を一覧で確認。一覧画面からメール本文の具体的な内容を確認する画面を開き、承認作業を行なうことができる。

株式会社トランスウェア(TransWARE Co.)

〒104-0033 東京都中央区新川1-5-17

TEL: 03-5540-0083 FAX: 03-5540-0084

URL: <http://www.transware.co.jp>Email: active@transware.co.jp

お問い合わせ

ファイルセンターとは

ファイルセンターとは、ファイルを共有するメンバーに個別または共通に発行されるURLでアクセスできる、ファイルの受け渡し画面です。
ファイルセンターでは、ファイルのダウンロード、ファイルのアップロード、ファイルの削除、コメントの送信および閲覧が可能です。



ファイルセンターログイン画面

ファイルセンター画面

サービス価格

■ 月額基本料金 300円 / 1アカウントあたり

月額基本料金に含まれるサービス内容

- 期限付きドライブの作成 (最大保存期間: 14日間)
※14日以上経過したファイルは自動的に削除されます。
- 期限付きドライブ1つあたりの合計ファイルサイズ上限値: 2GB
- ファイルの合計受け渡し回数: 10回 / 1アカウントあたり (実契約アカウント数×10回)

■ オプション

以下の容量追加のオプションをご契約いただくと、期限付きドライブに加えて、ファイルの保存期間に制限がない無期限ドライブを利用いただくことができます。

10GB	100GB	1TB
30,000円 / 月	60,000円 / 月	300,000円 / 月

オプションに含まれるサービス内容

- 無期限ドライブの作成
※上記容量は全アカウントで共有する無期限ドライブの合計容量になります。

※サービスの最低利用期間は12カ月です (複数年契約も可能)。更新も年単位になります。
※価格はすべて税別表記です。

Active! drive SSの詳細は Web サイトをご覧ください http://transware.co.jp/adss_service/



TransWARE

株式会社トランスウェア (TransWARE Co.)
〒104-0033 東京都中央区新川1-5-17
TEL: 03-5540-0083 URL: www.transware.co.jp
e-mail: active@transware.co.jp

2014.10

TransWARE

外部のゲストユーザーとのセキュアな
大容量ファイル転送・共有は
Active! drive SSにお任せ!

朗報!

Active! drive SSはビジネス向けの、
本格的な大容量ファイル転送、
オンラインストレージサービスです。
「情報漏えい対策」「データの一元管理」を強力に支援する、
法人利用に最適な7つのアドバンテージを備えています。

ファイルの転送・共有には万全のセキュリティを!

ビジネス利用のための 7つのアドバンテージ

大容量ファイル転送サービス
オンラインストレージサービス
大容量・無期限ドライブ領域
セキュリティコントロール
送信経路・データの一元管理
SLAによる99.9%の稼働率保証
24時間365日のサポート体制

すぐに使える

クラウド型サービスなので
ご契約後すぐに
利用開始が可能です!

安心のセキュリティ

高度なセキュリティ設定、
ファイル送信経路やデータ共有場所の
一元管理が可能です。

高品質なのに低価格

高品質な機能と大容量のドライブ領域を
1アカウントあたり300円から!

Active!driveSS

Active! drive SSとは?

Active! drive SSとは、株式会社トランスウェアが提供する、大容量ファイル転送、オンラインストレージサービスです。

ファイルが大容量化し、内部だけではなく外部とのデータ共有のニーズも増えていますが、「メールの添付ファイルで送信」「無料のオンラインサービスを利用」「USBなどの物理媒体でやりとり」などの従来の方法では、セキュリティや機能に不安が残ります。

ビジネス利用を前提に開発されたActive! drive SS。ユーザー毎にセキュリティレベルをコントロールし、ファイルの送信経路やデータの共有場所を一元管理できます。「安心のセキュリティ」「すぐに使える」「高品質なのに低価格」を実現した、信頼の大容量ファイル転送、オンラインストレージサービスです。

データ共有の2つのサービス

大容量ファイル転送サービス	外部との一時的なファイルの受け渡しをするサービスです。
オンラインストレージサービス	長期的にファイルを保存・共有するためのサービスです。
大容量、無期限のドライブ領域を提供	追加オプションにより、大容量で保存期間制限のないドライブ領域の利用も可能になります。

ビジネス利用のための7つのアドバンテージ

大容量ファイル転送サービス

外部の第三者との一時的なファイルの受け渡しをするサービスです。簡単なウィザード形式で実行できます。

大容量・無期限ドライブ領域

追加オプションの容量プランで、大容量で保存期間の制限のない無期限ドライブ領域の利用が可能になります。

送信経路・データの一元管理

ファイルの送信経路、データの共有場所、ユーザーの利用履歴・行動履歴を一元管理できます。

24時間365日のサポート体制

障害対応は年中無休の24時間365日体制。専用のサポートダイヤルをご用意しています。

オンラインストレージサービス

長期的にファイルを保存・共有するサービスです。個人で利用するドライブとメンバー間で共有するドライブを提供します。

セキュリティコントロール

ユーザー毎の権限設定、ファイルの受け渡し期日やダウンロード回数制限などのコントロールが可能です。

SLAによる99.9%の稼働保証率

二重化されたシステムにより、SLAは稼働率99.9%を保証。ビジネスに信頼性の高いサービスを提供します。

高い実用性とセキュリティを提供

大容量ファイル転送サービス



大容量ファイル転送サービス

最大14日間の期限付きドライブを利用して、外部の第三者との一時的なファイルの受け渡しをするサービスです。ドライブの作成、アクセスできる第三者の設定、ファイルのアップロード、ドライブ(ファイルセンター)のURL・ログインパスワードの通知などはウィザード形式で簡単に行うことができます。URL・ログインパスワードを受け取った第三者は、「ファイルセンター」からファイルをダウンロードできるだけでなく、アップロードすることも可能です。

オンラインストレージサービス

長期的にファイルを保存・共有するサービスです。利用できるドライブには「マイドライブ」と「共有ドライブ」があります。



オンラインストレージサービス

マイドライブ

マイドライブ内では、ユーザー自身がドライブ(保存領域)を作成することができます。ドライブ名・有効期限・共有メンバーの設定をし、ファイルのアップロード・ダウンロード・削除が可能です。「期限付きドライブ」だけではなく、ご契約内容によっては「無期限ドライブ」を利用することも可能です。

共有ドライブ

他のユーザーから共有されることで利用できるドライブです。外部のゲストユーザーとの共有もでき、ゲストユーザーもファイルのアップロード・ダウンロードが可能です。共有ドライブでも「期限付きドライブ」と「無期限ドライブ」を利用することができます。

セキュリティ機能



セキュリティ機能

管理者機能

管理者は各ユーザーが利用している画面を、ユーザーと同じインターフェースで確認することが可能で、ユーザーの利用履歴・行動履歴を管理することができます。共有アドレス帳の設定・確認はもちろんのこと、ユーザー側のアドレス帳の確認も可能です。

ユーザー機能

ドライブを共有するメンバー毎に、ファイルのアップロードの可否、コメントの閲覧・追加の可否、ファイルのダウンロード回数、公開・非公開などの権限設定ができます。また、任意でのファイル削除や、タイムライン機能で操作履歴を確認することも可能です。

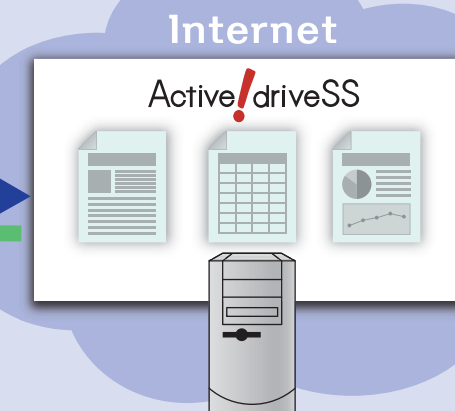
ご利用時のイメージ図

外部のゲストユーザーとのセキュアなファイル共有を実現

フォルダを作成してファイルのアップロード/ダウンロードが可能



ご契約ユーザー様



メールで送れないような大容量ファイルの共有が可能



取り引き先A

Active! drive SSの「SS」とは?

Active! drive SSの「SS」はSecure & Safeサービスの意味を表す頭文字です。業務上の大切なファイルを扱う法人向けデータ共有サービスにおいて、お客様に「不安のない」「安心していただける」「安全な」サービスを提供したいという願いを込めています。